

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	愛知県	事業実施主体	愛知県、新城市	地域再生計画名	「山と共に歩むまちしんしろ」活性化計画
計画期間	令和2年度～令和6年度	評価責任者	愛知県建設局道路維持課長、新城市建設部土木課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度	中間年度	年度	中間実績	基準年度	達成率		指標総数	達成数		
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	森林整備の促進	704ha	H29	785ha	R4	455ha	840ha	R6	×	3	0	間伐面積について、林道整備や高機能林業機械の保有台数増などにより環境改善は進んでいるものの、近年は作業効率の悪い急峻な箇所の間伐を行っているため、労務費等事業経費の上昇、担い手の不足などの影響により伸び悩んでいる。また、大雨による災害が多発しており、林道が通行出来ず計画していた箇所の間伐が進まなかったことも要因のひとつである。今後、林道の整備に併せて、林道沿線での森林の団地化や人材育成、事業体の支援など森林施策促進の取り組みを進め、目標達成を目指す。
	指標2	三河材（地元材）の利用促進	20,620m ³	H29	22,648m ³	R4	15,000m ³	24,000m ³	R6	×	3	0	素材生産量について、目標値には達していない。森林整備の促進が進まなかったことに加え、木材価格の依然とした低迷により主伐が進まなかったことが大きな要因である。本計画に基づき整備した林道をはじめとする林内路網の充実と、高機能林業機械等による当該林道沿線等での施業の促進を図ることによって、目標達成を目指す。
	指標3	新城ラリーの来場者数の増加	49,000人	H30	54,000人	R4	26,500人	59,000人	R6	×	3	0	新型コロナウイルスの影響で4年振りに有観客での実施となった。有観客での実施の決定、発表が遅くなったため、来場者数が伸び悩んだ。また、競技主催者からの申し出により2023年3月の新城ラリーをもって閉幕することが決定したため、最終目標値の達成も不可能となったが、他のイベント等でも活用されている新城総合公園へのアクセス改善のため、本計画を進めていく。
②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度（R4）	最終実績見込み								
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業		8,556m	6,282m	8,563m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は73.4%であり、順調に整備が進んでいる（計画11路線中7路線が完了）。引き続き、計画に則した整備を目指す。							
	林道整備事業		8,490m	6,243m	8,438m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は73.5%であり、順調に整備が進んでいる（計画6路線中2路線完了）。引き続き、計画に則した整備を目指す。							
その他の事業	三河材の利用促進		鳳来総合支所、消防詰所の建設に三河材を利用した。また、治山、林道事業における三河材の利用の取組を進めており、今後さらに利用促進を進めていきたい。										
	高性能林業機械の保有促進		効率化施策への働きかけと林道・作業道等の基盤整備に伴い、R元年の19台からR4の25台へとおよそ32%増となっている。										
	バイオマス燃料としての木材の利用促進		新城市湯谷温泉のボイラー燃料として毎年839m ³ の木材を利用している。										
	森林整備・林業を担う後継者の育成		チェーンソー講習や刈払講習を毎年各3回程度実施している。										
	市民と行政の協同による美化作業		毎年春と秋の年2回、自治会や各種団体に呼びかけ道路美化清掃活動を実施し、道路環境の改善を図っている。										
計画外で独自に実施した事業													
③評価方法	「山と共に歩むまちしんしろ」活性化計画」評価委員会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討を行う。												
④中間評価の公表方法	新城市土木課、森林課のホームページに掲載												
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的に行うことにより、林業従事者の利便性の向上、三河材流通加工事業組合等の林業関係機関の活性化、また、間伐の促進、三河材の利用促進を図るなど、地域特性を踏まえた林業を振興すること、さらに、観光アクセス道路であり企業団地へのアクセス道路である主要道路の環境整備を行うことで、市民の快適で安全な生活の推進と地域の活性化を図ることを目的としている。指標1、2、3ともに現時点で目標達成の見込みが厳しい状況にあるが、本計画を実施することで、災害に強い道路基盤整備が進み、大型機械を利用した整備が行える森林面積が増え、森林整備の促進、三河材の利用促進にも繋がることから、引き続き地域再生計画の事業展開を図っていくものである。												
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況					有りの場合その具体的内容							
	地域再生計画の見直し（有・無）												
	令和6年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 千円												
⑦今後の方針等に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> ●事業費増額に伴う軽微な変更を実施予定 ●市道小畑吉川線、市道大海線の事業費の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度事業費 市道 認定時110,000千円（軽微な変更後）300,000千円→見直し後410,000千円 [110,000千円（うち交付金55,000千円）増] ・総事業費 認定時2,702,000千円（軽微な変更後）3,054,856千円→見直し後3,164,856千円 [110,000千円（うち交付金55,000千円）増] 												